

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	公共交通対策特別委員会	会議場所	第3委員会室
		担当職員	鈴木智
日 時	平成29年5月12日(金曜日)	開 議	午前 10 時 00 分
		閉 議	午前 11 時 34 分
出席委員	◎福井 ○小松 酒井 田中 並河 小島 明田		
執行機関出席者	【まちづくり推進部】竹村部長、並河事業担当部長 [都市計画課]関口課長 [政策交通課]伊豆田課長、川内係長		
事務局出席者	片岡事務局長、鈴木議事調査係長		
傍聴者	市民0名	報道関係者0名	議員0名(一)

会 議 の 概 要

1 0 : 0 0

1 開議

〔福井委員長 開議〕

〔議事調査係長 日程説明〕

〔まちづくり推進部 入室〕

1 0 : 0 2

2 案件

(1) 平成28年度事業報告及び平成29年度事業計画について

<まちづくり推進部長>

亀岡市公共交通会議において、ふるさとバスの別院コース及び畑野コースが、土曜日、日曜日、休日はガレリアかめおかまで延伸すること、また、コミュニティバス、ふるさとバスの運賃見直しについても議論いただいた。その内容についても報告する。

1 0 : 0 5

〔政策交通課長 資料に基づき説明〕

1 0 : 4 5

〔質 疑〕

<並河委員>

資料P2、桜シャトルをたくさんの方が利用されているが、運賃はいくらか。

<政策交通課長>

路線によって違うが200円である。

<並河委員>

バス料金を値上げすることについて、他の自治体の一覧もあるが、利用者にアンケート調査を行っているのか。

<政策交通課長>

アンケートは行っていない。地域公共交通計画の中では、料金を上げていくこととなっている。この計画に際して実施した平成24年のアンケートでは、「亀岡中心部は安い」「格差是正をしてほしい」「200円ぐらいはやむを得ないと」という意見があった。

<田中委員>

鹿谷の交通空白地域の改善について、自治会と協議中とのことだが、まだ話を始めた程度であるのか。具体的な方向性があれば答弁いただきたい。

<政策交通課長>

自治会が抱えている課題について聞かせていただいている。実際にどれだけ利用されるかについて、自治会も不安なところがあると聞いている。並河駅線を若干変更して、できれば公共交通で対応してほしいという意見をいただいている。改めて路線変更を示すこととしている。

<酒井委員>

バス・エコファミリー事業を把握するために、市が独自でチラシを作成された。元々京都府の事業であるので、コストはゼロであったが、チラシを作った市の負担はどれくらいのものか。

<政策交通課長>

コピー代だけである。

<酒井委員>

平成27年度は一旦やめて、それ以前と同じ形にされたとのことだが、把握の仕方、枚数の集計表示の方法は子どもの分も含めているのか。チケットは、大人の枚数だけみればよいのか。

<政策交通課長>

乗車いただく際に、「大人1、子ども2」等と記載してもらい集計している。

<酒井委員>

平成26年度までは、大人、子どもを分けずに集計していたと思う。前回は普段の土日との差について質疑し、後日、委員長に報告するということがあったが、委員会の開催がなかった。

<政策交通課長>

その時は、後から委員長、副委員長に説明させていただいた。普段の土日との差については、把握できていない。

<酒井委員>

バス利用者が増えたかどうかを知りたかったが、微妙なのであれば、前回把握してほしいと言ったが、今年度は手間をかけて実施しなくてもよいのではないか。

<政策交通課長>

土日利用については、きっちりと把握できていないが、チケットには「バス」と書いてあるものと、「エコ」と書いてあるものがある。「エコ」と書いてある方は、明らかに普段乗車しない人がこの券を使って乗られており、60人は普段乗らない方が乗車されている。

<酒井委員>

書くのも手間であり、「エコ・ファミリー」と言うだけで乗れるのであれば、把握するかどうかは、手間を考えて判断していただければよいと考える。

次に、敬老パスはいつ頃スタートするのか。

<政策交通課長>

敬老パスは健康福祉部が所管しているが、当課としてもバス事業者との関係もあり、

一緒に進めている。現在の予定としては、秋頃を目途に進めている。

<酒井委員>

どの程度利用が増えると考えているのか。今まで乗っていた人が、その料金になることで運賃収入がどうなるか等の試算が説明にはなかった。それほど大きく影響しないと考えているのか。

<政策交通課長>

ダイヤ改正があるので秋頃を目安としている。75歳以上の方に使っていただけるよう検討している。70歳になり免許返納された方が、バスカードをもらえるという制度の検討も進めている。利用者の試算については、他市をみている限り、約1割から2割と聞いているので、本市もそれ位の利用だと考えている。

<酒井委員>

敬老事業で節約した分をバスに乗車してもらえると期待している。東別院町のデマンド方式について、試行実験は続いているような説明であったが、まだ本格実施ではないのか。

<政策交通課長>

本格実施のような形で動いているが、まだ1年くらいであるので試験運行という形で取り組んでいただいている。

<酒井委員>

平成28年度は満額支給されたのか。

<政策交通課長>

平成28年度は、運営補助140万円の内131万9000円を補助した。導入費用としては、車の購入費として199万5000円である。

<酒井委員>

平成29年度分を補助申請されていると思うが、いくらで申請されているのか。

<政策交通課長>

平成28年度は6月22日からの運行であり、131万9000円であった。今年度当初の申請額は約150万円である。予算計上は260万円であるが、鹿谷の検討等に向けての取り組みにも使えるものである。亀岡市内の交通空白地域に対応する予算である。

<酒井委員>

3月定例会では、333人が利用されているとの答弁であった。平成29年度も週3回の運行で計画されているのか。

<政策交通課長>

現在のところ週3回で計画されている。利用者が大変多い日もあると聞いており、また変化が出てくるかもしれないということも聞いている。

<酒井委員>

車両は週3回動かして、残りの日は置いてあるのか。

<政策交通課長>

基本的には置いてある。

<明田委員>

以前、京都交通が経営破たんした当時、亀岡市はいくらぐらい運営の負担をしていたのか。

<政策交通課長>

改めて報告する。

<明田委員>

充実すればするほど、要求が出てくると思う。

<福井委員長>

大切な視点である。

<並河委員>

篠町でもコミュニティバスを運行されているが、大井町では駅まで行くのが遠いという意見がある。また、ガレリアかめおかに行きたいという要望もたくさんある。今後、色々な形で議論されると思うが、市はどう考えているのか。バスを走らせてほしいという要望はたくさんある。

<政策交通課長>

並河駅線になると思うが、どう再編するかということを検討していかなければならないと考えている。鹿谷の件や、大井工業団地の新たな企業の従業員の利用、また、千代川町の花ノ木医療福祉センターの課題も地域交通計画に記載されている。

<酒井委員>

収益は補助対象の10分の3以上あるのか。

<政策交通課長>

交通空白地域の事業については、収益よりもシビルミニマムとして、生活するための必要最小限のものとして、最低1日1便の交通を確保する施策である。

<酒井委員>

補助金要綱の規定を満たしているのか。

<政策交通課長>

シビルミニマム以上に運行した場合のものであり、最低1日1便は収益にとらわれず実施しているものである。

<酒井委員>

要綱を見てもそのことはわからない。10分の3以上にこだわらず、週3回の運行は実施しているのか。

<政策交通課長>

地元が求められているものとなっている。本来は毎日走らせてもいいと思うが、運転手のこと等、様々な検討の中で最低限が週3回となっている。

<酒井委員>

1日1往復でコストは1万5000円程度かかる計算であるが、経費は何にかかっているのか。

<政策交通課長>

今、数字は持ち合わせていない。受付事務や運転手、ガソリン等の経費が積み上がってきている。事務費ということで、諸々のものは計上されている。

<酒井委員>

利用者負担はどの程度されているのか。

<政策交通課長>

利用者負担はいただかないこととなっている。料金をいただき運行するとなると、道路運送法の関係もあり困難となる。

<酒井委員>

道路運送法を満たしていくことを年頭に置き、要綱を規定されているのか。

<政策交通課長>

将来的にはそのようになると考えている。

<小島委員>

別院コース、畑野コースふるさとバスの土日のガレリアかめおかへの延伸について、

時間的にはどう検討されているのか。遠方から来られる場合、かなり早い時間帯から運行しないと、ガレリアかめおかでのイベント開催時刻に間に合わないのではないか。帰られる時も合わせて、どのように検討されているのか。

<政策交通課長>

土曜日、日曜日、休日については、畑野線についても本数が若干少なくなっている。少なくなった分を伸ばすので、基本的には同じ時間で走ることになる。

<小島委員>

ガレリアかめおかでのイベントに間に合っているのか。乗れなかったという話も聞くので配慮願いたい。

<小松副委員長>

西つつじヶ丘自治会と話は進んでいるのか。

<政策交通課長>

自治会長及び自治会役員の方と協議した。美山台の中が大変勾配がきつく、高齢化している中で、歩きにくいという話もある。なんとか美山台にバス停を設置できないかという話である。美山台1丁目から外周を回り、4つのバス停を設置してほしいという要望であるが、なかなか難しい。真ん中に公園があるので、そこまでバスが入り安全に走行できるかを、京阪京都交通に現地確認いただいた結果、路上駐車がなければ大丈夫だということであった。ルートについては、これで進めていくことを自治会長に報告した。そこを走ることによりダイヤの組み替えが出てくるので、既存ダイヤにどのような影響を与えるのかということ、京阪京都交通に試算してもらっているところであり、方向性を検討していきたい。このため、自治会にはもう少し待っていただきたいと返答している。それにより便数が減る場合、関連する自治会に了解をもらわなければならない等、様々なことを京阪京都交通に預けているところであるが、今後の展開を検討していきたい。

<酒井委員>

東別院町のデマンド方式は広げていくということであるが、いつまで試行とするのか。

<政策交通課長>

地元としては、依存しているところが大きいものであり、一定の評価をいただき、本格運行に移行していきたい。

<酒井委員>

予算特別委員会では、試行実験が終われば条例化してはどうかという意見もあったが、どう考えるか。

<政策交通課長>

委員会とも相談して進めていきたい。

<酒井委員>

公共交通会議にタクシー業者を参加させてはどうかという一般質問があったが、できそうなのか。

<政策交通課長>

今月末に第1回目の公共交通会議を予定している。その中で、このことを報告し、次の公共交通会議から参加していただけるようにしていきたい。

<酒井委員>

値上げについては、公共交通会議で報告するということがあったようだが、今後は議題に上げて承認いただくことを考えているのか。

<政策交通課長>

料金改定については、最終的には公共交通会議の了解を得ることになる。前回は議題としては上げず、平成29年度はこのように取り組んでいきたいということを説明した。亀岡市がどれだけ負担しているのか、また、負担が大きいので料金改定が必要だということ等が何も示されていないので、判断できないということであった。このため、今月末の会議でも議題として上げず、まずは説明していきたいと考えている。このやり取りが終わった段階で、議題として上げていきたいと考えている。

<酒井委員>

値上げについて、今後承認いただくという表現があった。これは合議体であるので、要綱ではなく条例設置すべき附属機関ではないかと考えるがどうか。

<政策交通課長>

検討していきたいと考える。

<酒井委員>

補助金の条例化については、政策交通課だけのことではない。一度、行政係に相談し、その結果を教えていただきたい。

<政策交通課長>

そのようにしていきたい。

<福井委員長>

交通空白地域とはどこであるのか。

<政策交通課長>

山本、千代川町湯井、鹿谷、東別院町、西別院町である。

<福井委員長>

篠町のコミュニティバスは、市道北古世西川線ができた場合、どれぐらい利用客を増やせる目算であるのか。

<政策交通課長>

大変利用者数が少なく、市の持ち出しで試験運行している状況である。中心部から市立病院へのアクセス手段として実施しているので、市道北古世西川線が完成すれば、そこを通るルートに路線変更していきたいと考えている。実際に何名乗車があるかをわかって動かしていくのではなく、実施して実績を把握する中で、将来をみながら、継続するかどうかをみていきたい。平成28年から実施したが、利用数が少なかったので、市民が求めている形に変更するためアンケート調査を実施し、それを反映、修正している。今後利用者をみていく中で、評価していきたい。

<福井委員長>

公共交通のネットワークについて、専門的にコーディネートするような人はいるのか。

<政策交通課長>

現在は商業施設へのアクセスや、地域公共交通計画により回していくということになっている。その中で美山台のように高齢者が利用しにくいという声を聞きながら、修正を加えることになる。京阪京都交通が自主路線として運行されているルートもあり、そこに影響を与えるような路線は慎むということになる。重複でルートを入れていく必要もないので、既存路線をみながら、商業施設等への利便性がある場所を通るようなルートを考えている。

<福井委員長>

要望はあるが、このように通した方がいいというような、もっと専門的なプロの見地から見ていく人がいてもよいのではないかと。

<政策交通課長>

今は我々が検討している。専門的なところでは、京阪京都交通にも意見をいただいている。バスは大きいので物理的に入っていくのが無理な所もある。

<並河委員>

東別院町のデマンド方式は、万が一事故が起きた場合の責任はどうするのか。

<政策交通課長>

地元で保険に入っただき対応している。地元にも了解いただいている。

<酒井委員>

東別院町のデマンド方式について、経費がかかっている。週3回1日1往復しか稼働しない車を補助しているので、もったいないと思う。現地を見たいと思うがどうか。もう少しよい方法はないかと考えるので、実態を見に行きたい。

<政策交通課長>

要望があれば、地元で相談させていただく。どういうところを見るのか。運行状況を見るのか、受付状況を見るのか、それとも実施している人たちに意見を聞かれるのか。それにより地元で問い合わせることになる。

[まちづくり推進部 退室]

11 : 28

3 その他

(1) 委員会調査について

<福井委員長>

今後の進め方について意見はないか。

<酒井委員>

東別院町のデマンド方式を現地視察したい。補助金要綱に定めている内容がよくわからない。条例化すべきだという意見が複数の委員から出ていたので、そこを注視したい。南丹市は公共交通会議を条例設置している。要綱設置しているところは、地裁で負けた例もある。先ほど答えを返すこととなった部分について、委員会として確認していただきたい。

<福井委員長>

実際にどこまで行けばバスに乗車できるか等の現状がつかめていないので、交通空白地域の鹿谷、山本等を見ていく機会もつくりたい。そして、議会としてもこのように進めてはどうかという意見を出せるようにしていきたい。

次回については、正副委員長で調整し、7月か8月に特別委員会を開催することとする。

散会 11 : 34